

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-162	13-049	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Stimulant use, religiosity, and the odds of developing or maintaining an alcohol use disorder over time. 覚醒剤の使用、宗教、長期間にわたるアルコール使用障害の発症や継続の割合について		
執筆者		
Borders TF, Booth BM.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2013 May;74(3):369-77.		
キーワード		PMID
覚醒剤、宗教、飲酒		23490565
要 旨		
<p>目的： 農村部では特に、コカインやメタンフェタミンの常用者は、アルコールの過剰摂取が長期間になり、その程度も増悪しやすいということはあまり知られていない。宗教はこの状況の改善に寄与できるかもしれない。本研究では、農村部覚醒剤常用者のアルコール過剰摂取と宗教の関わりについて農村部住民の長期コホートをを用いて調べた。</p> <p>方法： 回答者主導型サンプリングで最近覚醒剤を常用している 710 人の参加者を集め、3 年以上の期間で 6 か月ごとにインタビューを行った。過去 30 日間のコカインや覚醒剤の使用、宗教、アルコールの多飲確率に関連する共変量を算出するために同時モデルと遅れモデルで一般化推定方程式を使った。</p> <p>結果： 研究開始時、全体の 56%はアルコール乱用者だった。一般化推定式(同時モデル)では、時間の経過に従い、アルコール乱用は有意に減少したが、一般化推定式(遅れモデル)ではそうではなかった。クラックコカインとアルコール乱用の関連の強さ(同時モデル)は時間経過とともに減少するが、どちらのモデルでもクラックコカインの使用はアルコール乱用増加傾向と関連があった。パウダーコカインの使用と頻回の教会通いはアルコール乱用減少と関連があった。</p> <p>結論： 農村部の覚醒剤常用者、特にコカインを使う人は、飲酒とコカインのどちらを治療しても利益が得られる。加えて、本研究では頻回に教会に通うことは、アルコール乱用の悪化防止と関連があることが分かった。</p>		